

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4470400559
法人名	社会福祉法人 平成会
事業所名	グループホーム花・花
訪問調査日	平成20年 9月26日
評価確定日	平成20年10月30日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月5日

【評価実施概要】

事業所番号	4470400559		
法人名	社会福祉法人 平成会		
事業所名	グループホーム花・花		
所在地	日田市日の出町156 (電話)0973-26-3500		

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成20年 9月26日	評価確定日	平成20年10月30日

【情報提供票より】(平成20年 9月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年12月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 16人, 非常勤 2人, 常勤換算	17.3人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有 (50,000 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
又は1日当たり 1,000円			

(4)利用者の概要 (平成20年 9月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	7 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.8 歳	最低	71 歳	最高	98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	若宮病院 大分友愛病院 石井歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- 1 法人施設が隣接していて、研修システムが整備され介護に活かされている。
- 2 市街地に位置し、隣にスーパーがあり食材の購入に利用者とは出かけ、外出の支援と共に、それぞれの出来る事を引き出しサポートしている。いきいきとした表情がみられ、笑顔が良い。
- 3 個別援助計画書を作成し身体状況、精神状況等多機能にわたり記録され職員で把握され会議を通して共有している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価については改善シートを作成し、目標を決め取り組んでいる。災害時の地域の協力については地域消防団の参加のもとに、火災避難訓練が実施されている。終末期ケアについては、家族、医師、職員等と話し合い看取り介護に対し指針を作成し同意を得ている。職員に対しての終末期ケアについて、研修をすると共に、看取り後の心のあり方について話し合わせ、今後活かしていくよう取り組まれている。
	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4) 管理者が職員に自己評価票を提示し、共に検討し作成している。
重点項目②	運営推進会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。家族会代表、自治会長、民生委員児童委員、地区老人会、地域包括センター職員、市福祉保険課職員、地区消防署、法人理事長、管理者、職員等が出席している。会議を通して地域の理解が出来てきた。市の担当職員と交流も出来ている。窓口パンフレットを設置している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) ホーム便りによる近況報告やアンケートにより家族の意見を聞いている。年2回の家族会の開催時に意見を聞くようにしている。面会時にも、意見を聞くようにして、介護に活かせるようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の運動会や、清掃デーの缶拾い等に参加したり、グランドゴルフなどの催しに参加していただいたりして交流をしている。缶拾いの参加では、危険場所の確認など地域の方と確認できたり、運営推進会議での話し合いで、火災訓練に地域住民の参加についての意見交換をしたりと、協力体制ができています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境の中で常にその人らしく生きられるよう家族、地域と連携を取りながら介護に活かしている理念となっている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について再度、地域性についても検討している。又日々の実践の中で活かされている。申し送りや会議の時、理念を考え、原点に戻るための指針としている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事に参加をしたり、施設のグランドゴルフなどに地域の方の参加を呼びかけ交流をはかっている。清掃デーに利用者と共に参加し、危険場所の確認ができている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で評価内容を話しながら検討し、管理者と共に改善点を探りながら作成している。前回の改善点については改善シートを作成し期限を決め、具体的な取り組みがされている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議がなされている。参加者は家族、自治会、地区老人会、地域包括支援センター、市役所職員、民生委員児童委員、地区消防署、多くの地域の方の参加がある。会を重ねるごとに意見が聞かれるようになったり、地域住民の火災訓練の協力体制が整い、具体的な意見が出ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員とは相談しやすい関係作りができ、窓口にパンフレットを置かせてもらっている。また、研修内容の検討や事前の打ち合わせなど情報の共有を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行の便りによる近況報告をしている。健康についてや異常の際は随時に報告をしている。また、金銭管理については毎月精算し、領収書を送っている。職員の異動については便りによるお知らせや、年2回の家族会で紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に明記している。家族会や行事の際、意見を聞くように務め、アンケートによる意見の抽出もしている。ケアに関しては面会時に、話し合い意見を取り入れるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は極力避けている。異動の際には、十分な説明や、利用者の把握をしながら対処している。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部研修もよくされている。職員と良く話し合い方向性を確認しながら年間計画を立て、計画に沿った研修をしている。また、法人での基礎的な研修の参加もしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久大地区のグループホームの協議会がある。定期的に当施設管理者が主体で参加し、質の向上に取り組んでいる。8月からは、相互実地研修を行い成果も出ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族、本人の依頼があったときは利用者の自宅を訪問して状態を把握している。サービス利用時は不安を取り除くように本人、家族に十分な対応をしている。また、家族と一緒に泊まっていただくこともある。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	その人らしさを追及し、出来る事の喜びを感じ、可能性を見出し、できることの自信へ繋いでいける介護をしている。利用者職員間に和やかな雰囲気が見られ、利用者への気持ちを大切にされた支援が出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者の思いを聞く姿勢が出来ていて、職員の観察力がケア会議に活かされ、家族の意見を取り入れながら検討している。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の日常生活での関わりの中で、課題を抽出、家族の意見を聞きながら全職員で意見交換しながら利用者によりよい介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なカンファレンスを3ヶ月1回を目標にやっているが、随時見直しも実施している。家族の意向も考慮している。また、必要なら担当医の指示も受けている。個別援助計画簿が利用者毎に記録され健康状態、生活状態、気付きが記入され状態が把握されるシステムが出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院、受診の個別の対応が出来ていて、家族の同伴もある。外泊支援についても支援している。(重要事項に明記) 外食希望があれば応じている。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の心身状態について家族と相談をしながら医療機関を選定している。かかりつけ医については家族との確認が取れている。内科、歯科とも受診は出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	急変時の対応、重度化に対する指針の対応について説明し、同意を得て、家族、医療機関と連携を取りながら支援する体制を取っている。家族の意向については今後の状態の変化に応じ話し合いをもち、意向を確認している。話し合いの結果を研修し職員と情報を共有し、利用者、家族、双方を支えあう支援している。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員との契約時に個人情報保護について説明、研修をしている。日常会話にも念頭に置きながら介護に努めている。ホーム便りの公開も家族の了解を取っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護の基本に沿って生活のリズムを整え、生活することを基本に置きながら、本人の希望を聞き、買い物、家事援助、外出等支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは、利用者に関わりながら買い物、調理とその日の役割分担が出来ていきいきとしている。話題もあり食事を楽しんでいる。職員との交流もよく利用者の知恵が生かされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低2日に1回の支援をしているが、毎日の入浴の対応もしている。清潔保持は常に心がけている。仲の良い人同士の入浴も対応するなど入浴を楽しむ支援は出来ている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来る事の役割分担、出来そうな事を見極めながら、家事や趣味活動を支援している。仲良しグループで外食に出かけることもある。漬物作り、雑巾縫いなど個性を引き出しながら支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	隣のスーパーに買い物に出かけたり、ドライブや外食に出かける支援をしている。落ち着かない利用者には付き添って散歩に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けない対応をしている。家族との危険についての話し合いもしている。落ち着かない利用者には職員の見守りや声かけで対応し、共に外出の対応も出来ている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害訓練は法人での共同訓練もしている。施設独自の訓練もしている。地域の住民と合同で火災訓練を実施している。夜間想定訓練もしている。2～3日分の備蓄の用意ある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の献立は施設で考え、管理栄養士のもとで献立が出来ている。食材や調味料について基本に沿うようにしている。食事摂取量や水分摂取量の把握はしている。体重測定などで毎月の健康管理をしている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、エレベーターなど季節感の演出がされ落ち着いた色合いである。光、音の配慮が見られる。随所に日田杉が使われ木のぬくもりがある。台所から食事を作る匂いがして生活感がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望や家族の思いを取り入れながら、居心地良い空間づくりをしている。その人らしさが感じられる。利用者の思いを汲みながら前向きに支援している。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的なかつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 花・花
(ユニット名)	1階
所在地 (県・市町村名)	大分県日田市
記入者名 (管理者)	川浪 和恵
記入日	平成 20 年 9 月 8 日

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 花・花
(ユニット名)	2階
所在地 (県・市町村名)	大分県日田市
記入者名 (管理者)	川浪 和恵
記入日	平成 20 年 9 月 8 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>理念に「地域・家族と連携しながら」と謳っており、日々実践に向けて努力している。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>オープン当初から変わらない理念で、職員にも浸透しており、日々の実践の中で悩んだり迷ったりする時、原点に戻るための柱として定着している。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>隣のスーパーへ毎日入居者と買い物に行っているのも、スーパーの店員さんもとても理解を示してくれている。ご家族もとても協力的で、入居前に住んでいた地区の方がホームに遊びに来てくれたり、交流が続いている方が多い。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>運営推進会議に民生委員さんや老人会の方が参加していただき、「交流の機会を作りましょう」と言っていただき、具体的に話を進めている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地区の運動会に参加したり、グランドゴルフ大会を主催し、地域の人たちの交流の機会が多くある。施設の敷地内に新しく出来た公園で、近隣の住民の方とバーベキューをして楽しく過ごした。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>昨年から取り組んでいる地域の防災組織作りを継続している。また、消防署や地区の消防団、地域住民の協力を得て、施設全体の火災避難訓練を行った。民生委員さんや老人会の方々を通して、災害発生時の避難場所としてホームや併設の施設が利用出来る旨、地域の高齢者に話をしてもらっている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>職員全員で評価内容について確認しながら改善点を探り、話し合っている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議の開催も定着してきており、意見も活発に出るようになってきた。火災避難訓練の実施においては、地域住民はどんな協力をすればよいかなど積極的な意見もあり、次回の火災避難訓練についての具体的な内容についての意見も出た。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当職員と避難訓練や市内グループホーム間での研修実施の内容について事前の打ち合わせなど行っている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護についての研修会に参加し、必要であれば協力が得られる体制になっている。また、ご家族にも後見人制度や財産管理等についてのアドバイスも行っている。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人内の身体拘束防止委員会にGH職員からも代表が参加し、定期的に研修会を実施している。日ごろから「自己決定」や「尊厳」などについて考えながらケアの提供を実施、カンファレンス時にも「どこまでが本人の自己決定になるのか」など職員間での討議も活発で「尊厳」「自己決定」についての意味やを深く受け止めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時には家族・本人も不安になることを踏まえ、初めから入居という形ではなく、家族が泊まったり、本人も2～3泊で自宅に帰ってみるなど、その方に応じて臨機応変に対応している。また、退居の際は居宅支援等と連携しながら、自宅へ帰ってからのサービス調整などを行い、家族や本人のダメージを最小限に抑える努力をしている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者自身が外部へ苦情を言うのは困難と思われるので、日常生活のなかで本人の思いを汲み取るよう職員に指導している。また、ご家族が面会に来たときにはご本人の要望や不満がないか、訊ねてもらうようお願いをしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月発行のホーム便りにて写真を掲載して日常の様子をお知らせしている。健康状態は、現在の病状について随時報告をしている。金銭管理は毎月清算をして、領収証と共にご家族に郵送している。職員の異動については年2回の家族会にて報告している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書に明記している。年2回の家族会でも積極的に呼びかけているが、言い出せないのが実情だと感じる。定期のカンファレンスの際や、面会に見えたときなどに必ず要望を聞くようにしている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的に職員の面接を実施し、個別に話をする機会を設けている。カンファレンス時にも業務カンファを実施、現場の意見を重視する体制をとり、運営に反映できるよう努めている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況に合わせた勤務形態について職員と話し合いながら柔軟に対応している。ターミナル時には、可能な限りご家族に宿泊して付き添ってもらうなどの協力も得たりしながら、ご家族・職員双方にとって過度な負担にならないよう留意した。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動は不定期にあり、オープン当初から変わらずいる職員と、異動や新規採用の職員と入り混じっている。離職(特に男性職員)については法人の努力だけでは困難なところまできている(給与面)と感じる。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に1～2回、職員と面接し、本人の方向性を確認しながら、年間の目標を立て、それに沿って研修を進めている。研修は施設内外で実施・受講している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	九大地区のグループホーム協議会があり、定期的に管理者が集い、質の向上に向けての取り組みを行っている。8月から相互実地研修を行っており、成果が見られている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スポーツやバーベキュー大会などのイベントや職員旅行を実施、福利厚生にも力を入れている。管理者は職員と会話をよくするよう努め、現場での問題や悩みがないか、気にかけている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	いちばん反映されるのは給与面だと思うが、個々の資格要件にも関係してくるので、勤務状態とそれが比例しているとは言い難い。資格がなくとも、実績のある職員に対しては将来の方向性を一緒に考えたりしながら、希望と意欲を持って働けるよう管理者とよく話し合ったり、やりがいや希望が持てるよう努力している。	○	男性職員の離職が相次ぎ、慢性の人手不足に陥っている。周辺施設も同じだと思うが、法人内事業所でも、人員不足のため事業の縮小を余儀なくされた。グループホームはなんとかつないでいるが、他人事ではない。今後も現場の声をよく聴くよう努力したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人・家族と両方からよく話を聞くようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人・家族と両方からよく話を聞くようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	GHに入居することを前提に考えるのではなく、介護者の関わり方や確保できる介護量、本人の希望や不安などをよく聞き、どうすれば一番安心して暮らせるのかを一緒に考えるようにしている。必要であれば専門医や包括の紹介も行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用の初日は本人の不安を取り除くことを一番に考えて対応している。また、家族も同時に不安を感じていることがほとんどなので、家族にホームに泊まってもらったり、自宅へ外泊したり、職員と一緒に自宅へ行ったりなど、リロケーションダメージを最低限に抑えられるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「認知症の人」と言う見方をせず「〇〇さんに認知症がくっついてる」と指導しており、職員も「その人らしさ」を追究・継続できることに喜びを感じ「どうすれば〇〇さんらしく生活できるのか」ということを念頭にケアの提供を実施している。また、認知症になっても出来ること、出来るかもしれない可能性を見出し、出来たことを素直に「素晴らしい」と感じながら毎日を過ごしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いを常に考慮しながら「いま必要な支援」「可能性」「リスク」について、なお「本人らしさ」をどう支援するか話そう心がけている。ご本人が望む(非言語的含む)支援についてご家族と話し、同時にご家族の心情的な支援にも努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居して間もないご家族のほとんどが、認知症になった自分の身内をそのまま受け入れることが出来ないというのが実情。ホームでの生活の様子や、周辺症状について時間をかけて話をしていくうちに、少しずつご家族にも変化が見られるようになる。今は、ほとんどのご家族が認知症という病気を理解しており、ご本人をありのまま受け止めてくれている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親類など、遠方からでもよく訪ねてきてくれ、近隣に在住する友人・親類はホーム主催の行事に参加して下さる。また、ホーム便りを送ったり、手紙や電話で近況報告をし、本人との距離が遠くならないように配慮している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるように努めている	個々の性格を理解・受容し、無理に共同生活を強いるようなことはしていない。しかし、他者との関わりがあまり好きではない方でも、一緒に生活することで「仲間意識」が生まれ、他者を気にかける様子はよく見られる。過度な支援はせず、お互いが気持ちよく、しかしその人らしさを尊重しつつ暮らせるように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	亡くなった方のご家族も時々遊びに来てくださる。在宅復帰された方から相談を受けることがあったり、特養へ入所された方のご家族も時々遊びに来てくださる。ホームでターミナルを迎えられたご家族には家族会に参加していただき、体験談を話して頂いた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランは基本的に3ヶ月に1回の見直しとし、必要であれば随時カンファレンスを開催、プラン変更も随時行い、プランの周知徹底に努めている。プラン作成にあたってはご家族ともよく話し合いをし、その人らしさを尊重し、ご本人にとって最適な支援はなんなのかよく話し合い、ご理解・ご協力を頂いている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族がすべての情報を把握しているとは限らないので、近所の方や、親類など出会えた方にはこれまでどんな生活をしてきたのか訊ねるように努め、情報収集に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ホーム独自の「Happy!カンファレンスシート」にて情報の収集・把握・共有に努め、一日の日課を居室担当者が作成、その後スタッフ全員でチェックし、統一したケア提供に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的カンファレンス(3ヶ月に1回)開催とは別に、異変が見られたときなどには随時ミニカンファレンスを実施し、その都度ご家族の意向を確認している。必要であれば担当医に指示を仰いでいる。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	同上		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録用紙はケアプランを反映させ、常に目標としている状態像を描きながら支援できるようにしている。心身状態の急激な変化等あった場合は、24時間生活シートや排泄チェック表などを一定期間記録し、場合によってはご家族とスタッフ全員でカンファレンスを実施、方向性を確認してケアプランの変更しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	リハビリが必要な方へ、医療による訪問リハビリを依頼したが、市内・外の施設から「需要が多すぎて回りきれない」と断られた。そのため、併設の施設に月1回来るPTから指導を受け、職員で出来るリハビリの指導を受けるようにした。その他、訪問看護や訪問診療(歯科・内科・精神科)など必要とされる方には積極的に支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ご本人の要望は特に見受けられないが、運営推進会議には民生委員、消防署、地元の消防団の方が参加してくださっており、とても協力的である。地域の小・中学校、高校から定期的に実習の依頼があり、イベント時のボランティアを受けてくださる。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入院による退居や、ご家族の希望による在宅復帰などの場合に包括やケアマネージャー、医療機関のSWと調整を図る支援をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域担当の包括職員には運営推進会議に参加していただいている。在宅復帰の際や、入居中込みを頂いたなど、必要であればサービス調整を依頼している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の心身の状態についてご家族と相談しながら、医療機関の選定を行っている。入居時には内科から眼科まで、それまでのかかりつけ医について確認をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>看取りのあと、職員は精神的なダメージを受けてバーンアウト状態に陥っていた。何年も家族同然に生活をし、安心して、一日でも長く幸せに暮らすにはどうすればよいのか。そんなことをずっと追求してきた職員に、看取りという体験はとて辛く重いものだった。それを知った後、何度も職員と話し合い「看取るとはどのようなことか」について講師を招き研修会も実施した。職員へのグリーフケアについては、これからもずっと継続していかねばならない重要なテーマであると強く感じている。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	契約時に個人情報保護についての確認をし、職員にも個人情報保護についての研修も行っている。ホームでの日常の会話も、常に「尊厳とは」ということを念頭に置きながらケアするよう心がけている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	認知症のために出来なくなっている部分をさりげなく支援し、出来ること・可能性を引き出すケアが出来るように努めている。出来ないことを否定するのではなく、存在感を認めたり、自信につながるようなケアの提供に努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護の基本的な部分(食事・入浴・排泄・睡眠・活動)を外さないように、生活のリズムを整えながら生活することを基本とする。外出がお好きでよく出かけるが「今日はどこに行く?」と訊ねても「どこもいかにいい。ここにおる」などの声が出たときはお留守番組と外出組に分かれて行動したり、臨機応変に対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	散髪はご本人やご家族の希望に沿って支援している。認知症の症状や状況に応じて、施設内で元・美容師の職員が散髪したりと、その方の状況に応じて臨機応変に対応している。女性入居者には顔のマッサージをしたり、イベント時にはお化粧をしたり、外出着と普段着を分けておしゃれをして外出している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的に3食とも手作りで、職員と入居者が一緒に調理している。買い物に行く人、野菜を切る人、つぎわけをする人、配膳、片付けなど、少しでも関わることで手続き記憶の部分を刺激したり、作業をすることで職員や入居者間での関係が向上し、食事をみんなで楽しく食べることが出来るよう、努めている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品についてはご家族の理解とかかりつけ医の意見を聞きながら楽しめるよう支援している。おやつは、摂取カロリー等を考慮し、ご家族と相談しながら楽しんでいただいている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失禁が見られたときは、排泄に関する情報を細かく記録し、カンファレンスにて対応策を決め、トイレ誘導など、オムツに頼らない方法をまず試してみる。オムツ等を使用するようになっても定期的にカンファレンスを行い、日中と夜間での使い分けや、睡眠の質への障害をきたさない程度のトイレ誘導を行ったりしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体制上の理由から毎日午後2時からがお風呂の時間、となっているが、排泄の失敗や皮膚疾患がある場合などには、時間は関係なく入浴している。また、一人ずつ入ることを基本としているが、仲のよい人同士で一緒に入浴したりなど、入居者の思いを汲みながら支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	基本的には日中はよく体を動かし夜はぐっすり眠る、ということを目指している。昼寝などは健康状態に支障をきたさない範囲で起きて過ごしてもらおう下肢の浮腫や、午睡をしたほうが調子よく過ごせる方など、状態観察をしながら実施している。就寝は、遅くまでホールでテレビを観る人、日記を書く人、早く休む人自由。健康状態の観察・管理を行いながらそれまでの生活習慣を尊重した支援を心掛けている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来ること、したいこと、出来そうなことを見極めながら、家事や趣味活動を支援している。仲良しの2～3人のグループで職員と食事に出かけたり、1対1で出かけたり、雑巾縫いをしたり、一人ひとりの個性を重視している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出や受診の時など、本人に支払いをしてもらうこともある。出来ない人でも、職員がそばに付いて見守りしながら支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出や散歩はご本人の健康状態を考慮しながら、支援している。希望がなくても、体調・気候がよければドライブに行ったり外食をしたり、よく出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に1回バス旅行を企画し、家族と一緒に日帰り旅行に出かけている。また個別でもお墓参りに行ったり、図書館や友人宅へ等出かけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人によく電話をかけている。年賀状、暑中見舞など、支援しながらやり取りをしている。また、毎月のホーム便りを友人や親類にも郵送しており、近況を報告し、本人宛に手紙を頂いたり、電話を頂いたり、ホームへ遊びに来てくださったりと交流につながっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	防犯上、19時には施錠するが面会は24時間対応している。来客もよくあり、ホールで皆さんと一緒にお茶を飲みながら近況報告をしたり、楽しく過ごしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束をしないことについての勉強会を実施している。日常のケアの中に潜む形に表れない拘束(例えば言葉など)について職員で考える機会を作り、拘束しないケアを職員で取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関・居室とも鍵をかけず、いつでも外へ出られるようになっている。反面、見失いのリスクもあり、ご家族とも話し合いを重ね、ご家族は「安全のため鍵をかけてほしい」と言われる。現在は夜間帯の19時から6時まで施錠。それ以外の時間は施錠せずに対応しているが見失うことが全く無いとは言いきれない。	○	鍵をかけないことの意義も十分理解しているが、反面、絶対目を離さず支援するのは困難という実情もある。ホームの方針としては「鍵をかけないケア」であることをご家族にも説明しているが、依然として行方不明については双方心配している。これまでも何度か見失いがあり、無事発見できているが、今後も絶対安全だとは言いきれない。今後もご家族と検討しながら取り組んでいきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	当ホームの最大のリスクは「見失い」である。居場所確認は日に何度も行っているが、見失わない、とは言いきれないのが現状。過去には、行方不明(無事発見できた)や、頻繁に外へ出て行く方に対して、見守りが過度になりすぎてストーカー介護のようなケースもある。	○	同上。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	その方の状態に応じて、収納したり、台所洗剤は台所に置いたままにしたり、状況に応じて対応している。認知障害の顕著な方が居るので鍵を掛けて保管している物品もある。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時の対応について随時確認を行っている。転倒や誤薬、薬の誤配、行方不明などについては法人全体でリスクマネジメントに取り組み、ホーム内でも毎月委員会を開催し、ヒヤリハット・事故報告書の検討会を開催し、対策について職員間で共有している。カンファレンス時には個々の報告書について再度検討したり対応策について周知徹底を図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	昨年暮れから今年初めにかけて、2名看取りをさせていただいたこともあり、職員の緊急時の対応も定着しつつある。入居者の状態に合わせて予測される症状や状況について随時カンファレンスを行い、周知徹底に努めている。	○	今後、看取りを進めていく上でも健康状態の観察、予測される症状の悪化など、医療に関する知識を高めていかなくてはならない。看護師・協力医と連携しながら、職員の観察力や知識など研修を重ねたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の方との合同の火災避難訓練を実施した。運営推進会議にも地域の方が参加しており、積極的に協力いただいている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	随時、予測されるリスクについて説明している。集団生活を営む上で最低限必要な、リスク(特に他の入居者への悪影響)軽減のための抑制(向精神薬による行動抑制など)が必要になる場合もあること、そこからおきるリスク(身体状態の低下)についての説明も行い、しかし「その人らしさ」を失わないケアを提供していきたい旨、ご家族と時間をかけて話し合い、最善の方法を担当医を交え検討している。危険予測が出来ない方の転倒のリスクなど、入居時に説明・同意を得ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段と様子が違ったり、異常があった場合は、他の職員や看護師、管理者に報告があり、受診が必要かどうかなど、早めの対策をとっている。また、その状況についてもその都度ご家族に報告している。必要であれば随時カンファレンスを開催し、対応策を検討している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方される内服等は職員がチェックし、副作用も記入、禁忌食物など職員間での情報の共有に努めている。全員が確実に内服等の把握が出来ているとは言い難いが、常日頃確認をするよう努力している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便リズムの把握とともに水分補給や食事内容にも留意している。毎朝の掃き掃除・拭き掃除とは別に、10時・3時のおやつ時にはホームで考えた体操を行ったり、天気がよければ散歩をするなど、体を動かすことにも意欲的に取り組んでいる。不穏症状があった場合は排便の確認を行うなど、便秘による精神面への影響についてもよく観察するよう努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ご本人の気分などで毎回必ず、とはいかないが、毎食後の歯磨き・義歯の手入れは誘導や介助にてその人にあった口腔ケアの方法で支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が作成したものを参考にし、1日の栄養バランスに留意している。毎食ごとに食事摂取量を記録、水分量は一日を通じての総摂取量を記録している。毎月の体重測定にて健康管理にも留意している。「オシッコが近くなるから飲みたくない」と言われる方が多く、こまめな水分補給を心がけている。ムセのある方にはゼリーで提供したり、トロミ食やお粥など、食事形態にも留意している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出から帰ったときの手洗いうがいの実施、洗濯物は疥癬予防のため乾燥機に掛けて熱風殺菌をしている。汚物処理時には使い捨て手袋を使用している。法人の感染症委員会に属し、感染症対策マニュアルを整備、毎月1回感染症に関する報告や対策について検討している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ふきん・まな板、おしぼりは毎日消毒している。冷蔵庫も定期的に消毒をしている。食材は1日2回買い出しに行き、新鮮なものを使っている。常備品以外は買いだめをしていない。残った食品の保存期間や感染症の発症しやすい時期などについても感染症委員会の指示が随時行われ、職員への周知徹底に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	隣のスーパーと施設の間にあるフェンスは24時間開放されており、スーパーの好意で自由に行き来出来るようになっていた。玄関は季節感を感じられるよう工夫し、来客される方が楽しみにされている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールのテレビは、必要なときのみつけるようにし、音量にも配慮している。明かりは自然の光が入りにくいので、昼と夜の違いがはっきりわかるよう、灯りの調整をしている。また時季にあった飾りつけをし、入居者と一緒に楽しんでいる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングやダイニングなど、皆それぞれ自由に過ごしている。昼間では洗濯物をたたんだり、玄関のソファでは日向ぼっこをしながらおしゃべりをしたり、思い思いの場所でくつろいでいる様子が見られる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望や家族の思いを聞きながら支援している。過度な私物はかえって本人の不安を募らせる(「自宅にあるはずの荷物がどうしてここにあるのか」など)こともあるため、その方に応じた対応をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝・夕2回の換気を実施、室温・湿度については感染症委員会からの指示のもと記録を実施、室温等の調整を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーとなっているが、個々の身体状況に応じてベッドや布団など使い分けをし、身体機能の低下に留意している。手すりは可能な範囲で設置し、自立した生活が送れるよう配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	施設独自のカンファレンスシートにて、日常生活上の出来ること、出来ないこと、出来るかもしれないことについてアセスメントし、ご家族と相談しながらご本人が自信を持って生活できるように努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花や野菜を植えて楽しんでいる。テラスでは気候のよい日はテーブルを出してお茶を飲んだり、バーベキューをして楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

オープン当初から変わらない理念で「家庭に近い生活をする」ことを目標に、家事全般を職員が支援しながら（時に「あんたたちがしない！」と叱られながら）一緒に行うよう、日々取り組んでいます。毎日買い物に行き、食事の準備をし、片づけをし、掃き掃除をして雑巾がけをして、また買い物に行って、という、てんやわんやの毎日です。また、法人所有の車両が自由に使えるため、外出支援を個別で行える利点もあります。施設が街中に位置していることから、買い物や交通の便には不自由がなく、入居前に住んでいたご近所の方や、遠方の方も気軽に遊びに来てくださいます。

職：「働かざるもの…」利：「食うべからず！」職：「頑張りましょー!？」利：「はーい！わっはっは！」と毎日笑い声が聞こえます。職員も「みんなに元気をもらおう」と職場に来るのを楽しみにしています。入居者もご家族も職員も、気楽に、穏やかに、笑顔で安心して生活できるHappy!なところ。そんなホーム作りに日々頑張っています。